

秋の講演会

平成24年11月3日、澤 隆史先生（東京学芸大学：総合教育科学群特別支援教育教室）をお迎えして秋の講演会が行われました。

大阪府社会福祉会館を会場にして、たくさんの参加がありました。『聴覚障害児の日本語の力を高めるために』という題で講演をしていただきました。動詞の島・構文の島モデル、ことばのインプット環境の大切さや正しい日本語を意識することなど、日々の指導に於いて大切な内容や、すぐに活用できそうなヒントがたくさんあり、非常に好評でした。参加していただいた方の感想を掲載して、講演の様子をお伝えします。



参加者の感想

・最近のろう学校の指導は、「日本語を習得させる」という意識が薄れてきているように感じます。「子どもがわかりやすいように」ということに意識がいて、手話や視覚的教材を多用することが多いと思います。日本語の音韻やリズム感、きれいさなどは、やはり聴覚活用と、発音することが大事だと、今日の講演を聞いて改めて思いました。

・日本語の島状態は、日本語の文法指導で橋を架けたり、舟を渡すだけでは大陸化につながらない、というお話が印象に残りました。豊かな経験や日常のコミュニケーションを大切に、手話や文字の活用を考えながら、日本語のインプットに励みたいと感じました。

・ろう学校で子どもたちに日本語を教えることの大変さを改めて感じました。本当に根性が必要ですね。日本語の習得に近道はないということでしょうか。今日の先生のお話は、日々の自分の指導に対して「それでいいよ」と認めてもらったり、「もっと、がんばれよ」と励まされているような気持ちになりました。

・日頃の保育で大切にしていきたいと思っていることを再確認することができました（手話と日本語をつなぐ指導など）。「習うより慣れろ」の中で、子どもたちの動機づけや心が動く活動をどのように取り入れて行くのか、具体的な方法を考え、これからも試しながら実践していきたいと思いました。自信→自己認識、自覚につながることは幼稚園でも大切にしていきたいと思いました。

・クラスの子ども達に、豊かな input ができるように、タイムリーに input ができるように、楽しく input ができるように、改めて、自分が発している「ことば」を吟味したいと思いました。子どもの生活から、もっている内言語を引き出してあげる目を持ちたいと思います。

・改めて日本語インプットの大切さが分かりました。聴覚障害児の言語インプット環境において、日本語の語彙力と、とりわけ文法力が課題になることが、ことばの島として視覚的に説明して頂きました。手話や指文字とともに読話、発語、発声も丁寧に教えていかなければと、思いました。

・「教えることによるのみでは日本語を習得することは難しい」という、内容は共感できました。自分で勉強するためにはメタ認知をどう育てていくかが課題だと日頃から感じています。そのためには、わかる体験から、自分の分からないことがわかるという説明はよく理解できました。

・今、非常に感じているのはメールでのコミュニケーションの難しさです。生徒は、よくメールでのやりとりの中で、誤解を生じさせることもあります。誤解を生じさせないためには、日本語の力を高めることだと思うのですが、これも非常に難しく、最近特に悩んでいます。今日、澤先生の話聞いて、何か取り組めることがあるのでは、と思いました。まだ、具体的なことは思い当たりませんが、考えて取り組んでいきたいと思っています。

・ワーキングメモリーの容量への考慮、音読の大切さなど、再認識できました。子どもたちを前に日頃やっている指導の意味を改めて考えることができました。やっぱり最後は根性ですよ。とても共感できました。



今後の予定は下記の通りです。

平成25年 1月25日(金) 第3回代表委員会(和歌山ろう学校)

26日(土) 冬の学習会(和歌山勤労者総合センター)

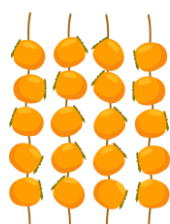
『聴覚障害児教育における早期教育・療育・支援のあり方について
—教育と医療の立場から—』

田中 美郷 先生(田中美郷教育研究所所長)

南村 洋子 先生(全国早期支援研究協議会会長)

3月中旬

集録第14号発行・機関誌42号発行



近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 松川 雅一

〒591-8034

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町1丁目

大阪府立堺聴覚特別支援学校内

TEL: 072-257-5471

FAX: 072-257-3310

メール: kinki02062@hotmail.co.jp